



独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校

令和4年度 学校要覧



2022年、高等専門学校制度 創設60周年の節目を迎えました。

高等専門学校（高専）は、昭和36（1961）年6月に学校教育法の一部改正により創設され、昭和37（1962）年4月に第一期校が開校されて以来、国内外で活躍する多彩な人材を輩出し続け、現在は国公立合わせて57の高専が設置されています。

また、日本独自の成功した教育システムとしての「KOSEN」に、諸外国から熱い視線が注がれています。

これからも国公立一体となって全世界で活躍するエンジニアやクリエイターの育成に力を注ぎ、輝く未来社会の創造を先導します。

【高専制度創設60周年記念ロゴマーク】



<デザインコンセプト>

60周年の60の数字から導かれる大きな円により、現在そしてこれからの未来を切り開く高専生の「勢い、真っ直ぐさ、大胆さ」を表現。また、高専機構のHPなどでも用いられる青色や工業を連想させる歯車をロゴマークに入れることにより親しみやすいデザインに。

目次

◆ 校長挨拶……………	P1	◆ 学生相談室・保健室……………	P28
◆ 校章・シンボルカラー・校歌……………	P2	◆ ものづくり教育センター……………	P28
◆ 沿革……………	P3	◆ 総合情報センター……………	P28
◆ 教育理念……………	P4	◆ 産学民連携テクノセンター……………	P29
◆ 教育目的・目標（本科）……………	P4	◆ キャリア支援室……………	P29
◆ アドミッションポリシー……………	P4	◆ 学生寮……………	P30
◆ 各学科・専攻科の3つの方針……………	P5	◆ 学生会……………	P31
◆ 主な行事……………	P8	◆ 入学・在学状況……………	P32
◆ 組織……………	P9	◆ 卒業・修了状況……………	P33
◆ 一般科目……………	P11	◆ 研究活動……………	P34
◆ 学科		◆ 社会貢献……………	P35
機械工学科……………	P13	◆ 課外活動の主な実績……………	P35
電気電子工学科……………	P15	◆ 国際交流……………	P36
制御情報工学科……………	P17	◆ 大学等間交流協定……………	P37
生物応用化学科……………	P19	◆ 財務状況……………	P38
材料システム工学科……………	P21	◆ 施設状況……………	P39
◆ 専攻科……………	P23	◆ アクセス……………	P41
◆ 図書館……………	P27		



筑後川(手前)の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

校長 松村 晶



久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から80年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的にした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、1964年に、中学校卒業後の5年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第3期校として、本校は設立されて現在に至っています。1966年3月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は1万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、5年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の5学科を配しており、ここでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行なっています。その後続く2年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の2専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。専攻科では来年度から九州大学工学部と連携した教育プログラムコースを開設します。このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）が与えられます。

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を

教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員あげて取り組んでいます。本科生の約6割は卒業後に就職して社会で活躍をし始めます。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約40倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約4割は本校専攻科あるいは九州大学や東京工業大学等の大学3年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年100倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのために本校は、久留米市内の大学等の5つの高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を演ずるとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的にお応えしています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

校章・シンボルカラー・校歌

1. 校章



久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱいに咲き競い、咲き乱れます。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものです。

カラー：DIC249（緑色部分）、DIC208（黄色部分）

2. シンボルカラー

学校・学科名	色見本	色名称及／DIC番号
学校		緑色 / 249
機械工学科		黄色 / 166
電気電子工学科		紺色 / 184
制御情報工学科		空色 / N877
生物応用化学科		赤色 / 198
材料システム工学科		紫色 / 193

3. 校歌

1. 筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる 筑後川
ひる夜となく 流れ流るる 我らも進まん学びの道を
学びの道を !!

2. 春くれば つつじの花は 日に映えて 我が校庭に
咲き競う いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を 技術の花を !!

3. 紺碧の 空に聳ゆる 耳納山 永遠にゆるがで 世を譲る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを ゆるがぬものを !!

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和14年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開設されたことに起源を發します。同校は、高等教育改革の一環として昭和19年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和24年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和26年に閉校となりました。

その後、昭和33年に久留米工業短期大学が、そして昭和36年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに5年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

そして、昭和39年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和41年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成5年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。

年表

久留米高等工業学校・
久留米工業専門学校

昭和14年	5月	久留米高等工業学校設立 (機械科、精密機械科、工作機械科、 鋸山機械科、採鋸科) 初代校長 小林 俊次郎 就任 第1回入学式挙行
昭和16年	12月	第1回卒業式挙行
昭和17年	4月	化学工業科設置
昭和19年	4月	久留米工業専門学校に改称
昭和20年	11月	二代校長 大脇 策市 就任
昭和21年	4月	ゴム工業科設置
昭和24年	5月	九州大学に包括され、九州大学久留 米工業専門学校となる
昭和26年	3月	第10回卒業式挙行 九州大学久留米工業専門学校廃止 卒業生総数2,654名



久留米工業短期大学

昭和33年	4月	久留米工業短期大学設立 (機械科、工業化学科) 初代学長 九州大学学長 山田 穰 (併任)
	6月	二代学長 九州大学学長 教授 葛西 泰二郎 (併任) 第1回入学式挙行
昭和35年	3月	第1回卒業式挙行
	4月	電気科設置
昭和36年	4月	久留米工業短期大学附属工業高等学 校設立 (機械科、電気科、工業化学科) 同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任) 同校第1回入学式挙行
	5月	三代学長 和栗 明 就任 (附属工 業高等学校長を併任)
昭和37年	4月	短期大学、附属工業高等学校に金属 学科設置、機械科1学級増設
昭和39年	3月	附属工業高等学校廃止 (在校生は同 年4月設立の久留米工業高等専門学 校に編入学)
昭和41年	3月	第7回卒業式挙行 久留米工業短期大学廃止 卒業生総数752名



久留米工業高等専門学校

昭和39年	4月	久留米工業高等専門学校設立 (機械 工学科2学級、電気工学科、工業化 学科、金属工学科) 初代校長 和栗 明 就任 第1回入学式、編入学式挙行
昭和41年	3月	第1回卒業式挙行
昭和49年	10月	創立10周年記念式典挙行
昭和51年	7月	二代校長 園田 正明 就任
昭和59年	4月	三代校長 西川 兼康 就任
	10月	創立20周年記念式典挙行
昭和62年	4月	金属工学科を材料工学科へ改組
平成元年	4月	四代校長 長谷川 修 就任
平成3年	4月	機械工学科2学級のうち1学級を制 御情報工学科へ改組
平成5年	4月	専攻科設置 専攻科第1回入学式挙行
平成6年	4月	五代校長 谷口 宏 就任
	10月	創立30周年記念式典挙行
平成7年	3月	専攻科第1回修了式挙行
平成8年	4月	工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成11年	4月	六代校長 柳 謙一 就任
平成13年	4月	電気工学科を電気電子工学科へ名称 変更
平成16年	4月	独立行政法人国立高等専門学校機構 設置
平成17年	4月	七代校長 前田 三男 就任
平成22年	4月	八代校長 上田 孝 就任
平成26年	11月	創基75周年・高専創立50周年記 念式典挙行
平成27年	4月	九代校長 三川 譲二 就任
平成29年	4月	材料工学科を材料システム工学科に 名称変更
令和2年	4月	十代校長 本庄 春雄 就任
令和4年	4月	十一代校長 松村 晶 就任

教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標（本科）

◆ 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

1. 自立の精神と創造性に富んだ技術者
2. 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
3. 社会に貢献できる技術者

◆ 教育目標

1. 広い視野と豊かな心の涵養
2. 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
3. 専門に関する基礎知識と技術の修得
4. 問題を分析し、解決する能力の育成
5. 自ら学び、工夫する能力の育成
6. コミュニケーション能力の育成

本校共通のアドミッションポリシー

◆ 本科

1. 技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科

1. 科学技術に対する強い探求心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身に付けている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている人

各学科及び専攻科の3つの方針

本校は各学科及び専攻科においてディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入の方針）の三つの方針を掲げています。

◆ 機械工学科

ディプロマポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 機械技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 電気電子工学科

ディプロマポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 制御情報工学科

ディプロマポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 制御情報技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 生物応用化学学科

ディプロマポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。

そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような入学者を求めています。

1. 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 材料システム工学科

ディプロマポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため本校共通のアドミッションポリシーに加え次のような人を求めています。

1. 材料技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科 機械・電気システム工学専攻

ディプロマポリシー

機械・電気システム工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学のコースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。

評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

◆ 専攻科 物質工学専攻

ディプロマポリシー

物質工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

主な行事（令和4年度予定）

前期

4月

開寮
入学式、始業式、クラス写真撮影、オリエンテーション
校内研修（本科1年生）、数学診断テスト
TOEIC IP テスト、英語外部評価テスト（本科1年生）
定期健康診断
車両通学講習会
開校記念日



入学式

5月

専攻科入学試験（前期）
学生大会、後援会総会・保護者懇談会
クラスマッチ
総合防災訓練
ケータイ安全教室（本科1年生）
キャリアアップセミナー



クラスマッチ

6月

前期中間試験
公開授業
文化部発表会
いじめ防止講習会
ビジネスマナー講習会（本科4年生）

7月

九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
前期末試験

8月

前期末試験
閉寮
夏季休業
一日体験入学
全国高専体育大会（夏季）

9月

Web 学校説明会
学校説明会（福岡県会場）
夏季休業



学校説明会

後期

10月

開寮
全校集会（本科生）、専攻科入試（後期）
九州沖縄地区英語プレゼンテーションコンテスト
九州沖縄地区高専ロボットコンテスト
全国高専プログラミングコンテスト
学校説明会・見学会
入試説明懇談会
ストレスマネジメント講習会



全国高専
プログラミングコンテスト

11月

高専祭
クラスマッチ
学校説明会
九州沖縄地区高専体育大会（冬季）
編入学試験



高専祭

12月

後期中間試験
学生大会
高専フォーラム
冬季休業
閉寮

1月

全国高専体育大会（冬季）
高専シンポジウム
入学者選抜試験（推薦）
全校集会、予餞会
冬季休業
開寮



全国高専体育大会
（ラグビー）

2月

後期末試験
入学者選抜試験（学力）
特別教育期間
救命救急講習会

3月

特別教育期間、学年末休業
終業式
卒業式・修了式



卒業式・修了式

※新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる可能性あり

組織

1. 組織図



2. 教職員数（令和4年5月1日現在）

(1) 教員

標準人員枠（定員）		校長	教授	准教授	講師	助教	合計
		1	37	36	0	0	74
実行人員枠（現員）	校長	1	-	-	-	-	1
	機械工学科	-	4	4	0	2	10
	電気電子工学科	-	4	3	0	2	9
	制御情報工学科	-	4	4	0	1	9
	生物応用化学科	-	5	4	0	1	10
	材料システム工学科	-	5	3	0	2	10
	一般科目（文科系）	-	4	6	0	1	11
	一般科目（理科系）	-	3	8	0	1	12
合計		1	29	32	0	10	72

※助教の現員数にはフルタイム再雇用教員（特任教授）を含む。 ※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含まない。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60歳～	4	0	0	0	4
50歳～59歳	20	8	0	0	28
40歳～49歳	5	18	0	1	24
30歳～39歳	0	6	0	7	13
20歳～29歳	0	0	0	0	0
合計	29	32	0	8	69

※校長及び再雇用教員は除く

(2) 職員

標準人員枠（定員）		事務部長	課長	専門員	課長補佐	専門職員	係長	技術長	技術専門員	看護師	一般職員等	技術・	合計
		1	2	4	9	1	2	1	25	45			
実行人員枠（現員）	事務部長	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
	総務課	-	1	3	3	-	-	0	10	17			
	学生課	-	1	1	2	-	-	1	5	10			
	教育研究支援センター	-	-	-	-	1	2	0	12	15			
	合計	1	2	4	5	1	2	1	27	43			

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等を指します。

3. 管理職等教職員（令和4年5月1日現在）

職名	氏名
校長	松村 晶
教務主事・副校長	黒木 祥光
学生主事・副校長	田中 大
寮務主事・副校長	辻 豊
専攻科主事・副校長	川上 雄士
企画主事・副校長	酒井 道宏
プロボスト・副校長	江崎 昇二
機械工学科長	石丸 良平
電気電子工学科長	越地 尚宏
制御情報工学科長	小田 幹雄
生物応用化学科長	石井 努
材料システム工学科長	山本 郁

職名	氏名
一般科目（文科系）学科長	龍頭 信二
一般科目（理科系）学科長	篠島 弘幸
総合情報センター長	山口 崇
図書館長・副校長	奥山 哲也
産学連携テクノセンター長・副校長	中武 靖仁
学生相談室長	中尾 哲也
キャリア支援室長	梶 隆彦
事務部長	吉田 規雄
総務課長	吉田 覚
学生課長	木山 博志
教育研究支援センター長	江崎 昇二（併任）

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は5年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養とコミュニケーション能力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
龍頭 信二	教授/学科長	修士 (教育学)	運動生理学	保健体育3、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2
金城 博之	教授	Master of Arts	英米文学、英語教育学	英語2、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、応用英語2、実践英語Ⅲ
徳永 美紀	教授	Master of Arts in TESL	英語教育学	英語1、英語表現1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、実践英語Ⅱ
横溝 彰彦	教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語1、英語表現1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、応用英語2、実践英語Ⅰ
徳永 正尚	准教授	修士 (教育学)	英語教育学	英語1、英語3、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
藍澤 光晴	准教授	博士 (経済学)	経済史	公共、人文社会科学探求1、人文社会科学探求2、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
岡本 和也	准教授	修士 (文学)	中世東地中海世界の歴史	歴史、人文社会科学探求1、人文社会科学探求2、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
鴨川 都美	准教授	博士 (文学)	日本近現代演劇/文学	国語2、リテラシー実践、日本語、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、日本語コミュニケーション
赤塚 康介	准教授	博士 (理学)	運動生理学	保健体育1、保健体育2、リベラルアーツ特論1、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2、生涯スポーツ特論
福嶋 洋	准教授	修士 (スポーツ健康科学)	スポーツ医科学、コーチング	保健体育1、保健体育2、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2、リベラルアーツ特論2
常木 佳奈	助教	修士 (文学)	日本文学	国語1、リテラシー実践、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
安部 規子	嘱託教授	博士 (教育学)	第二言語習得	英語2、英語3、応用英語1、応用英語2
福田かおる	嘱託教授	Doctor of Philosophy (Social Anthropology)	社会人類学、英国文化	英語表現1、英語2、英語3
非常勤講師				12名

(2) 一般科目 (理科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
篠島 弘幸	教授/学科長	博士 (工学)	材料物性・量子エレクトロニクス	物理、応用物理1、応用物理2、応用物理実験、統計力学及び熱力学
酒井 道宏	教授	博士 (数理学)	代数的位相幾何学	数学3A、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅲ
宮本 久一	教授	工学博士	化学	化学1、化学2、化学実験、分子機能化学、応用化学実験、卒業研究
山崎 有司	准教授	修士 (理学)	薄膜	物理、応用物理実験、応用物理1
菰田智恵子	准教授	博士 (理学)	一般位相幾何学	数学2A、数学2B、数学3B、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
高橋 正郎	准教授	修士 (理学)	微分幾何	数学1、数学2B、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
谷 太郎	准教授	博士 (理学)	素粒子論	物理、応用物理実験、応用物理1、現代物理学
黒飛 敬	准教授	博士 (理学)	化学	化学1、化学2、化学実験、分子機能化学、応用化学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、先端工学特論
三木 弘史	准教授	博士 (理学)	確率模型、統計力学	数学1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅱ
小山 暁	准教授	博士 (人間・環境学)	高分子物理学、シミュレーション	応用物理実験、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
沖田 匡聡	准教授	博士 (数理学)	偏微分方程式論	数学1、数学2A、数学2B、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅰ
中村 駿介	助教	博士 (理学)	グラフ理論	数学2A、数学3B、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
非常勤講師				5名

3. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
ラーニングcommons	自習やグループ学習のための学習空間で、学生の学習支援を目的としている。
マルチメディア教室 (LL 教室)	視聴覚設備・教材を用いて、英語の音声に関する能力を向上させる。
英語演習室	英語でディスカッションを行い、英語を話す能力を向上させる。
応用物理実験室 (PJ)	本科学士の応用物理実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
一般化学実験室	本科学士の化学実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
赤外分光光度計	有機化合物の官能基の測定を行う。
旋光度計	光学活性体の旋光度の測定を行う。
紫外可視分光光度計	紫外光および可視光の吸収スペクトルの測定を行う。

4. 教育課程 (令和4年度1年生基準)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	国語1	4	4				
	国語2	2		2			
	リテラシー実践	2			2		留学生は履修しない
社会	地理	2	2				
	歴史	2		2			
	公共	2		2			
	人文社会科学探求1	1			1		留学生は履修しない
	人文社会科学探求2	1			1		留学生は履修しない
数学	数学1	6	6				
	数学2A	4		4			
	数学2B	2		2			
	数学3A	4			4		
	数学3B	2			2		
理科	物理	4		4			
	化学1	3	3				Cは4単位
	化学2	2		2			Cは1単位
	生物	1	1				A、E、S、M
	地学	1	1				A、E、S、M
	生物学1	2	2				C
英語	英語1	4	4				
	英語表現1	2	2				
	英語2	4		4			
	英語表現2	2		2			
	英語3	4			4		学修単位
	応用英語1	2				2	学修単位
	応用英語2	2				2	学修単位
保健・体育	保健体育1	2	2				
	保健体育2	2		2			
	保健体育3	2			2		
	生涯スポーツ1	2				2	
	生涯スポーツ2	1					1
芸術	美術	1	1				A、S、C、M
	音楽	1	1				E
科目教養	リベラルアーツ特論1	1				1	
	リベラルアーツ特論2	1				1	
必修科目修得小計		77	26	26	16	8	1
選択科目	外国語 第一						
	中国語	1				1	(1)
	韓国語	1				1	(1)
	フランス語	1				1	(1)
選択科目修得小計		1				1	(1)
一般科目修得合計		78	26	26	16	10	

※ A：機械工学科 E：電気電子工学科 S：制御情報工学科 C：生物応用化学科 M：材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。

卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
石丸 良平	教授/学科長	博士（工学）	歯車工学	リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、工業英語、機械設計製図、機械製図3、専門基礎（機械工学）、機械要素設計実験、機械工学概論（制御）
中武 靖仁	教授	博士（工学）	環境エネルギー工学	伝熱工学、地球環境と現代生物学、機械設計製図、機械加工実習3
谷野 忠和	教授	博士（工学）	流体科学	流体機械、応用数学1、流体工学、応用流動工学、四力学演習、機械要素設計実験
田中 大	教授	博士（工学）	熱工学	四力学演習、工業熱力学、技術英語、創造工学実験、移動現象論、機械要素設計実験
青野 雄太	准教授	博士（工学）	材料力学	機械工学セミナー、材料力学1、材料力学2、CAD演習、機械製図2、破壊力学、先端工学特論、四力学演習
中尾 哲也	准教授	博士（情報工学）	制御工学	機械力学、制御工学、工業力学、専門基礎（機械工学）、計算力学、応用情報処理演習、機械要素設計実験、創造工学実験、四力学演習
細野 高史	准教授	博士（工学）	特殊加工	品質管理、応用数学3、機械加工学、機械加工実習1、機械加工実習2、機械加工実習3、生産加工学、専門基礎（機械工学）
南山 靖博	准教授	博士（工学）	安全工学	応用数学2、安全工学と工業倫理、短期インターンシップ、情報リテラシー、技術社会の安全と倫理、安全工学・工業倫理、専門基礎（機械工学）、CAD演習
渡邊 悠太	助教	博士（工学）	表面処理	機械設計法1、機構学、図学、機械製図1
原田 豊満	特任教授	博士（工学）	材料力学	機械要素設計実験、弾塑性力学、材料力学2、機械加工実習2、機械工学概論（電気・生化）、産業財産権特論
和泉 直志	嘱託教授	工学博士	機械要素	精密加工学、トライボロジー解析学、設計システム工学、機械設計法1、機械設計法2、機械加工実習1、機械工学概論（電気・生化）
全員が担当することを基本とする授業科目				機械工学導入セミナー、機械工学概論、機械工学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			6名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
複合加工機	様々な加工を1台で行うことのできる数値制御工作機械。
5軸マシニングセンタ	5軸加工により滑らかな曲面の加工ができる数値制御工作機械。
ワイヤ放電加工機	板状の素材を精度良く複雑な形状に加工する機械。
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	製品の表面粗さや輪郭形状を1台で測定できる測定機。
精密万能試験機	金属材料の引張試験、圧縮試験、曲げ試験など各種試験ができる試験機。
赤外線サーモグラフィ	対象物から離れたところから、非接触で温度測定ができる測定機。
走査電子顕微鏡	表面構造や表面の形状を高倍率、高分解能で観察する顕微鏡。
3次元プリンタ	3次元のデジタルデータをもとに現実の物体を作る装置。

5. 教育課程

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	専門数学	確率・統計	2		2			学修単位
		応用数学1	1			1		
		応用数学2	1			1		
	専門理科	応用物理1	2			2		
		応用物理2	2			2		
		応用物理実験	2			2		
		化学実験	2		2			
	技術者素養	機械工学導入セミナー	1	1				
		安全工学と工業倫理	1			1		
		工業英語	1			1		
		機械工学セミナー	2				2	学修単位
	設計開発	図学	2		2			
		機械製図1	2	2				
		機械製図2	2		2			
		CAD演習	1			1		
		機械製図3	4			4		
		機械設計製図	4				4	
		機械要素設計実験	2					2
		機械設計法1	2				2	
		機械設計法2	1					1
	機構学	1				1		
	力学	工業力学	2				2	
		機械力学	2					2
		材料力学1	1			1		
		材料力学2	2				2	
		四力学演習	2				2	
	制御情報	情報リテラシー	1		1			
		制御情報工学概論	1			1		学科横断科目
		制御工学	2					2
	製造技術	機械加工学	1			1		
精密加工学		1				1		
品質管理		1					1	
機械加工実習1		3	3					
機械加工実習2		3		3				
機械加工実習3		3			3			
材料システム工学概論		1			1		学科横断科目	
熱流体	流体工学	2				2		
	流体機械	2					2	
	工業熱力学	2				2		
	伝熱工学	2					2	
	機械工学実験	3				3		
	卒業研究	12					12	
関連専門	電気電子工学概論	1					1	
	化学工学概論	1					1	
必修科目修得小計		89	6	10	20	25	28	
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	専門基礎(機械工学)	2			2			3年留学生のみ履修
	機械工学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修
選択科目修得小計		0以上				0以上		
専門科目修得合計		89以上	6	10	20	53以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	20	25	28	
	選択科目	0以上				0以上		
	小計	89以上	6	10	20	53以上		
総修得単位数		167以上	32	36	36	63以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取り組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。

さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
越地 尚宏	教授/学科長	博士(理学)	物性物理、工学教育	応用数学1、応用数学2、応用物理2、電磁気学3、電気電子工学概論、短期インターンシップ、電磁気学1、電気電子工学特論、量子力学、技術社会の安全と倫理、電気電子実験2、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
平川 靖之	教授	博士(工学)	レーザー分析	電気回路2、電気回路3、電気電子CAD、光エレクトロニクス、技術英語、応用電磁気学、電気電子工学特論、先端工学特論、専門基礎(電気電子工学)、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
宮崎 浩一	教授	博士(工学)	プラズマ科学	パワーエレクトロニクス、高電圧工学、電気電子演習1、電気電子演習2、プラズマ工学、電気電子実験2、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
山口 崇	教授	博士(工学)	磁気応用・計測	システム工学、電力応用、電気電子実験2、電気電子実験3、論理回路、電気電子演習1、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
ウリントヤ	准教授	博士(工学)	高周波工学	コミュニケーション、電気電子計測、マイコン制御、創造工学実験、専門基礎(電気電子工学)、電気電子演習2、電気電子演習3、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
村上 秀樹	准教授	博士(工学)	半導体工学	電気電子工学概論(機械、材料)、半導体工学、専門基礎(電気電子工学)、確率統計、電気電子実験1、集積回路工学、電気電子演習2、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
山本 哲也	准教授	博士(工学)	磁気応用・計測	電力システム、電気機器工学1、電気機器工学2、電磁気学2、電気電子実験2、電気電子実験3、電気電子演習3、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
原田裕二郎	助教	博士(工学)	集積回路工学	制御工学、電子回路、電気電子工学概論(生化)、創造工学実験、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
池田 隆	嘱託教授	博士(工学)	音声信号処理	電気電子設計、電気電子演習3、電気回路1、電気電子工学基礎、デジタル信号処理、技術社会の安全と倫理
加藤 直孝	特任教授	博士(政策・メディア)	人工知能	情報インフラストラクチャー、情報理論、通信ネットワーク、計算機アーキテクチャ、プログラミング1、プログラミング2、プログラミング3、情報リテラシー、コンピュータサイエンス、電気電子演習2、専門基礎(電気電子工学)、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
全員が担当することを基本とする授業科目				総合基礎演習、卒業研究
非常勤講師			3名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
バッテリーシミュレーター IPM モータ駆動システム	再生型直流電源とインバータによる永久磁石同期モータ駆動について学ぶことができる。
太陽光エネルギーシミュレータシステム	太陽光発電機器の特性をシミュレーションを通して体験・学ぶことができる。
電動機-発電機実験装置	直流機・誘導機・同期機等を実際に操作し特性を理解することができる。
テラヘルツ時間領域分光システム	最新のテラヘルツ分光システムを用いて高度な研究を行うことができる。
プロセス・デバイスシミュレータ	半導体素子の作成工程及び電気特性のシミュレーションを行うことができる。
LabVIEW / ELVIS / ROBOTICS システム一式	20セット以上保有し電気電子計測/デジタル制御を実践で学ぶことができる。
高電圧発生・測定システム	150kV程度の高電圧試験(絶縁・放電)を行うことができる。
ネットワーク・アナライザ	様々な高周波回路の周波数特性を観察/測定することができる。

5. 教育課程

	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必 修 科 目	電 気 電 子 基 礎	電気電子工学基礎	1	1					
		電磁気学1	1		1				
		電磁気学2	2			2			
		電磁気学3	1				1		
		電気回路1	1		1				
		電気回路2	2			2			
		電気回路3	2				2		
		半導体工学	2				2		学修単位
		応用物理1	2			2			
		応用物理2	2				2		
		確率統計	1			1			
		応用数学1	2				2		
		応用数学2	2				2		
		エ ネ ル ギ ー ・ 制 御	電気機器工学1	1			1		
	電気機器工学2		1				1		
	パワーエレクトロニクス		2					2	学修単位
	高電圧工学		2				2		学修単位
	電力発生工学		1					1	
	電力システム		1					1	
	電力応用		1					1	
	機械工学概論		1				1		学科横断科目
	制御工学	2				2		学修単位	
	コ ン ピ ユ ー タ ・ 情 報 通 信	情報リテラシー	1	1					
		プログラミング1	1	1					
		プログラミング2	2		2				
		プログラミング3	1			1			
		計算機アーキテクチャ	1				1		
		論理回路	2			2			
		電子回路	2				2		
		マイコン制御	1			1			
		電気電子計測	2				2		学修単位
		情報理論	1					1	
	情報インフラストラクチャー	1					1		
	通信ネットワーク	1					1		
	工 業 ・ 設 計	技術社会の安全と倫理	1				1		
		電気施設管理	1					1	
		コミュニケーション	1				1		
		システム工学	1					1	
		電気電子CAD	2		2				
		電気電子設計	1					1	
		電気電子材料	1				1		学科横断科目
		生物応用化学概論	1				1		学科横断科目
実 験 ・ 実 習 ・ 演 習	化学実験	2		2					
	応用物理実験	2			2				
	総合基礎演習	2	2						
	電気電子演習1	1	1						
	電気電子演習2	2		2					
	電気電子演習3	2			2				
	電気電子実験1	2			2				
	電気電子実験2	4				4			
	電気電子実験3	2					2		
	卒業研究	12					12		
必修科目小計		89	6	10	18	30	25		
選 択 科 目	短期インターンシップ	1							
	専門基礎（電気電子工学）	2			2			留学生のみ履修	
	電気電子工学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修	
選択科目小計		0 <small>以上</small>				0 <small>以上</small>			
専門科目修得合計		89 <small>以上</small>	6	10	18	55 <small>以上</small>			

修得単位数総計

一 般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78 <small>以上</small>	26	26	16	10		
専 門	必修科目	89	6	10	18	30	25	
	選択科目	0 <small>以上</small>				0 <small>以上</small>		
	小計	89 <small>以上</small>	6	10	18	55 <small>以上</small>		
総修得単位数		167 <small>以上</small>	32	36	34	65 <small>以上</small>		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を初めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器（例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機）を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
小田 幹雄	教授/学科長	博士（工学）	知能情報工学	計算機アーキテクチャ1、計算機アーキテクチャ2、情報通信実験、短期インターンシップ、計算機システム、デジタル回路設計、電子計算機基礎、論理回路、情報セキュリティ、形式言語とオートマトン、技術英語
江崎 昇二	教授	修士（工学）	制御工学	制御工学実験、シーケンス制御、加工実習、創造工学実験
江頭 成人	教授	博士（工学）	制御工学	パワーエレクトロニクス、制御情報工学概論（機械）、工業倫理と安全、電気回路2、機構学、情報処理基礎、メカトロニクス工学、デジタル制御、制御工学実験
黒木 祥光	教授	博士（工学）	画像処理	情報理論、応用数学1、信号処理、画像工学、コンピュータグラフィックス
中野 明	准教授	博士（情報工学）	教育工学	オペレーティングシステム、コンパイラ、データベース基礎、ソフトウェア工学、専門基礎（制御情報工学）、オブジェクト指向プログラミング、プログラミング2、データベース、情報通信実験、情報処理演習、情報処理2
松島 宏典	准教授	博士（工学）	高度道路交通システム	応用数学2、確率統計、離散数学、創造プログラミング演習、データサイエンスと人工知能1、計算機ネットワーク、応用情報処理、パターン認識
堺 研一郎	准教授	博士（工学）	スピン磁気量子物性	電子情報実験、半導体材料工学、電磁気学、電気回路1、加工実習、情報処理基礎、先端工学特論
田中 諒	准教授	博士（工学）	システム制御理論	ロボット工学、制御工学1、CAD演習、製図、プログラミング1、システム制御工学、創造工学実験
古賀 裕章	助教	博士（工学）	医用画像処理	電子回路、数値計算法、データ構造とアルゴリズム、プログラミング3、電子情報実験、創造プログラミング演習、短期インターンシップ
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学概論、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			3名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
電気電子工学実験装置	本科実験科目で利用し、電子回路の理解を深める。
産業用ロボット Performer・MK-3S 1 式	本科実験科目で利用し、産業用多関節型ロボットの制御についての理解を深める。
RaspberryPi 開発キット (FaBo) 14 セット	本科演習科目で利用し、マイコンやプログラミングの理解を深める。
レゴマインドストーム EV3 48 セット	本科演習科目で利用し、人工知能の理解を深める。
演習用パーソナルコンピュータ 50 台	1 日体験入学など多目的で利用し、情報処理、プログラミングなどの理解を深める。
演習用パーソナルコンピュータ 25 台	本科実験科目等で利用し、情報処理、プログラミングなどの理解を深める。
GPU による並列計算機サーバ 7 台	高速計算が可能のため、本科及び専攻科の研究で利用している。

5. 教育課程

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
専門共通基礎	制御情報工学概論	1	1					
	化学実験	2		2				
	応用物理 1	2			2			
	応用物理 2	2			2			
	応用物理実験	2			2			
	応用数学 1	2				2		
	応用数学 2	1				1		
	確率統計	2				2		
	離散数学	2				2		
	信号処理	2				2		学修単位
	情報理論	2					2	学修単位
	工業倫理と安全	1					1	
	メカトロニクス	製図	1		1			
加工実習		2		2				
機構学		1		1				
CAD 演習		1			1			
機械工学概論		1				1		学科横断科目
電気回路 1		2			2			
電気回路 2		2				2		
電子回路		2				2		
電磁気学		2				2		
パワーエレクトロニクス		1					1	
半導体材料工学		1					1	
物質工学概論		1					1	学科横断科目
通信工学		1					1	
電子情報実験		2					2	
シーケンス制御		1			1			
計測工学		1				1		
制御工学 1		2				2		
制御工学 2		1					1	
ロボット工学		2					2	
制御工学実験	2					2		
情報	情報処理基礎	2	2					
	プログラミング 1	1	1					
	プログラミング 2	2		2				
	プログラミング 3	1			1			
	オブジェクト指向プログラミング	1			1			
	数値計算法	2				2		
	データ構造とアルゴリズム	1				1		
	データベース基礎	2				2		学修単位
	ソフトウェア工学	1				1		
	オペレーティングシステム	1					1	
	コンパイラ	2					2	学修単位
	電子計算機基礎	2			2			
	論理回路	2			2			
	デジタル回路設計	1				1		
	計算機アーキテクチャ 1	1					1	
	計算機アーキテクチャ 2	2					2	学修単位
	計算機ネットワーク	1			1			
	情報セキュリティ	1			1			
	データサイエンスと人工知能 1	1				1		
	データサイエンスと人工知能 2	1					1	
創造プログラミング演習	2				2			
情報通信実験	2					2		
卒業研究	7					7		
必修科目修得小計		89	4	8	18	29	30	
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	専門基礎 (制御情報工学)	2			2			留学生のみ履修
	制御情報工学基礎 A	1				1		4年生編入学生のみ履修
	制御情報工学基礎 B	1				1		4年生編入学生のみ履修
選択科目小計		0 以上				0 以上		
専門科目修得合計		89 以上	4	8	18	59 以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78 以上	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	4	8	18	29	30	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	4	8	18	59 以上		
総修得単位数		167 以上	30	34	34	69 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

生物応用化学科

1. 概略

生物応用化学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。低学年において基礎科目を幅広く学習し、4年次から応用化学コースと生物化学コースに別れ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立)大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
石井 努	教授/学科長	博士(工学)	機能有機化学	有機金属化学、機器分析、工業物理化学1、酸塩基化学、有機化学実験、有機反応化学、応用化学実験、分析化学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
中島 裕之	教授	博士(農学)	生化学	化学工学概論、バイオ工学、遺伝子・細胞工学、生物工学実験、生物化学実験、基礎生物化学実験、専攻科研究論文、分子生物学、専攻科研究基礎、生体機能分子学、生物学2、生物応用化学概論(電気)、化学工学概論(機械)
辻 豊	教授	博士(理学)	有機化学	有機合成化学、化学1、教養化学、応用化学実験、有機化学実験、分析化学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
梶 隆彦	教授	博士(工学)	反応工学	化学工学2、物理化学2、応用化学実験、物理化学1、応用物理化学、化学工学概論、バイオ工学、物化・化工実験、創造化学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎、化学工学概論(機械)
笈木 宏和	教授	博士(農学)	微生物学	環境工学、有機化学2、代謝工学、情報化学1、情報化学2、生体物質化学、生物工学実験、生物化学実験、基礎生物化学実験、先端工学特論、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
渡邊 勝宏	准教授	博士(工学)	高分子化学	高分子化学2、有機化学1、基礎有機化学1、基礎有機化学2、分析化学実験、有機構造化学、高分子材料特論、応用化学実験、有機化学実験、生物応用化学概論(電気)、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
松田 貴暁	准教授	博士(工学)	応用化学	無機化学1、物化・化工実験、基礎溶液化学、化学平衡論、高分子材料学、機能有機材料特論、生物工学実験、有機化学実験、応用化学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
萩原 義徳	准教授	博士(理学)	構造生物学	酵素構造工学、生物学2、技術英語、遺伝子・細胞工学、情報化学1、応用情報処理演習、生物化学実験、基礎生物化学実験、生物工学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
我部 篤	准教授	Doctor of Philosophy (Materials Science)	化学工学	工業物理化学2、品質・安全工学、化学工学1、創造化学実験、化学工学特論、産業財産権・工業倫理、創造工学実験、物化・化工実験、応用化学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
中島めぐみ	助教	修士(医科学)	心身医学	情報処理演習、生物有機化学、化学工学基礎、化学2、地球環境と現代生物学、物化・化工実験、創造化学実験、生物化学実験、生物工学実験、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
富岡 寛治	嘱託教授	博士(工学)	生物工学	物質工学概論、産業財産権・工業倫理、生物学1、応用情報処理演習、創造工学実験、基礎生物化学実験、生物応用化学概論(電気)
全員が担当することを基本とする授業科目				生物応用化学入門、科学技術史、短期インターンシップ、専門基礎(生物応用化学)、生物応用化学概論、卒業研究、生物応用化学特論
非常勤講師			6名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
核磁気共鳴装置	有機分子や生体分子の分子構造を決定できる。
PCR 装置	DNA 試料から特定の遺伝子領域を増幅し、研究や検査に利用できる。
GPC 装置	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の分子量を決定できる。
蛍光顕微鏡	肉眼では見えない小さな生物や細胞を発光で観察できる。
原子吸光分光光度計	水溶液中の微量金属イオンの濃度を測定し、水環境分析等に利用できる。
テンシロン万能試験機	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の力学特性を評価できる。
ゼータ電位・粒径測定システム	ナノ粒子やタンパク質の粒径や分散安定性を評価できる。
熱分析装置	温度による物質の構造や重量の変化を評価できる。

5. 教育課程

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必 修 科 目	専 門 概 念	生物学 2	2	2				
		基礎無機化学	2		2			学修単位
		酸塩基化学	1		1			
		基礎有機化学 1	1		1			
		基礎有機化学 2	1		1			
		物理化学 1	1		1			
		物理化学 2	1				1	
		無機化学 1	1				1	
		無機化学 2	1				1	学科横断科目
		有機化学 1	1			1		
		有機化学 2	1				1	
		高分子化学 1	1				1	
		専 門 分 野 I	有機金属化学	1				1
	有機合成化学		1				1	
	高分子化学 2		1				1	
	機能有機材料		1				1	
	応用化学実験		3				3	
	ポリマー工学		2					2
	専 門 分 野 II	生物有機化学	1				1	
		遺伝子・細胞工学	2				2	
		代謝工学	1				1	
		生物工学実験	3				3	
		バイオ工学	2					2
	設 計 ・ 開 発	化学工学 1	2				2	
		化学工学 2	4					4
		機器分析	2				2	
		工業物理化学 1	1				1	
		工業物理化学 2	1					1
		機械工学概論	1					1
		電気電子工学概論	1					1
		学科横断科目						
	専 門 関 連 分 野	基礎溶液化学	1		1			
		化学平衡論	1		1			
		酵素構造工学	2			2		学修単位
		応用数学	2				2	
		応用物理 1	2			2		
		応用物理 2	2			2		
		応用物理実験	2			2		
		環境工学	2					2
		情報化学 1	2		2			
		情報化学 2	1			1		
		化学工学基礎	1			1		
		情報処理演習	2				2	
		創造化学実験	2	2				学修単位・学科横断科目
		分析化学実験	2		2			
基礎生物化学実験		3		3				
有機化学実験		3			3			
生物化学実験		3			3			
物化・化工実験		3				3		
生物応用化学入門		1	1					
品質・安全工学		2				2	学修単位	
産業財産権・工業倫理		2					2	
卒業研究		11					11	
工業英語	1					1		
必修科目修得小計		88	3	12	22	26	25	
科 目 選 択	科学技術史	1				1	(1)	
	短期インターンシップ	1				1		
	専門基礎 (生物応用化学)	2			2		留学生のみ履修	
	生物応用化学概論	1				1	4年生編入学生のみ履修	
	選択科目修得小計	1	以上			1	以上	
専門科目修得合計		89	以上	3	12	22	52	

修得単位数総計

一 般	必修科目	77	27	25	16	8	1
	選択科目	1				1	(1)
	小計	78	27	25	16	10	
専 門	必修科目	88	3	12	22	26	25
	選択科目	1	以上			1	以上
	小計	89	以上	3	12	22	52
総修得単位数		167	以上	30	37	38	62

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。

卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・構造、性質、機能
- ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
- ・設計、解析、評価
- ・材料工学に関連した周辺知識

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
山本 郁	教授/学科長	博士(工学)	材料組織制御	融体加工学、塑性加工学、基礎設計製図、図学、材料組織制御、材料システム実験2、材料システム実験5、材料工学概論、材料工学特論、専門基礎(材料システム工学)
奥山 哲也	教授	工学博士	固体物性	電気電子材料、材料物性学1、材料物性学2、材料システム実験4、半導体材料、結晶構造解析学
川上 雄士	教授	博士(工学)	金属加工学	品質工学、金属材料学2、金属熱処理論、工業英語、金属物理学2、材料加工実習、先端工学特論、創造工学実験、構造材料学、物質工学概論、材料システム実験4、専攻科特論一般I、専攻科特論一般II、専攻科インターンシップ、専攻科特論専門I、専攻科特論専門II
森園 靖浩	教授	博士(工学)	材料組織学	材料システム工学概論(機械)、材料システム実験5、接合工学・複合材料、短期インターンシップ、金属材料学1、材料組織学、材料システム実験2、輸送現象論
岩田 憲幸	教授	博士(工学)	材料化学	セラミックス材料学1、セラミックス材料学2、材料システム実験1、基礎材料化学、機能性無機材料学、工業英語、材料システム実験4
矢野 正明	准教授	博士(工学)	電気化学	環境工学、電気化学2、物理化学2、電気化学1、材料システム実験3、表面処理工学、材料システム実験5
周 致霆	准教授	博士(工学)	構造材料物性学	材料評価学、情報処理1、情報処理2、金属物理学1、情報リテラシー、高温強度学、材料システム実験2、材料システム実験5
清長 友和	准教授	博士(工学)	材料化学	材料化学1、物理化学1、触媒材料化学、材料システム実験3、工業英語
佐々木大輔	助教	博士(工学)	材料強度学	材料強度学、応用設計製図・CAE、機械加工学、材料力学、材料システム実験5、応用情報処理演習
小袋 由貴	助教	博士(工学)	材料化学	無機化学2、材料化学2、技術英語、情報処理1、情報リテラシー、材料システム実験1、先端工学特論、創造工学実験、工業英語
全員が担当することを基本とする授業科目				材料システム工学入門、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			2名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
光学顕微鏡	材料の“顔(組織)”を観察するための最も基本的な装置です。
電界放射型電子顕微鏡	材料の組織を高倍率で観察できます。元素分析装置も付いています。
X線回折分析装置	X線を照射し、それにより得られる回折ピークから物質を同定できます。
ICP発光分光分析装置	溶液中に含まれる元素を分析するためには欠かせない装置です。
走査型X線光電子分光分析装置	材料の極表面付近の化学結合状態を分析・評価できます。
高温引張試験装置	材料の引張強さを室温だけでなく、高温でも測定できます。
マイクロピッカース硬さ試験機	材料表面におけるミクロンレベルの領域の硬さを測定できます。
計装化シャルピー衝撃試験機	材料が破壊するときのエネルギーを測定し、強靭さを評価します。

5. 教育課程

	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	材料システム工学入門	2	2					
	情報リテラシー	1		1				
	情報処理1	1		1				
	情報処理2	1				1		
	応用数学1	2				2		
	応用数学2	1				1		
	応用数学3	1					1	
	応用物理1	2			2			
	応用物理2	2			2			
	材料加工実習	3	3					
	図学	1	1					
	基礎設計製図	1		1				
	応用設計製図・CAE	2				2		
	電気電子工学概論	1				1		
	機械加工学	1			1			
	基礎材料化学	2		2				
	セラミックス材料学1	1			1			
	セラミックス材料学2	1				1		
	材料化学1	2			2			
	材料化学2	2				2		
	物理化学1	2			2			
	物理化学2	2				2		
	高分子材料学	1					1	
	電気化学1	1				1		
	電気化学2	1					1	
	環境工学	1					1	
	金属物理学1	2			2			
	金属物理学2	1				1		
	材料物性学1	1				1		
	材料物性学2	2					2	
	材料力学	2			2			
	塑性加工学	2				2		
	材料組織学	1			1			
	材料強度学	2					2	
	金属材料学1	2				2		
	金属材料学2	2					2	
	融体加工学	1					1	
	材料評価学	2					2	
	工業英語	2				2		
	安全工学・工業倫理	1					1	
	品質工学	1					1	
化学実験	2		2					
応用物理実験	2			2				
材料システム実験1	2		2					
材料システム実験2	2			2				
材料システム実験3	3				3			
材料システム実験4	3				3			
材料システム実験5	3					3		
卒業研究	9					9		
	必修科目修得小計	88	6	9	19	27	27	
選 択 科 目	短期インターンシップ	1				1		1単位以上修得 留学生のみ履修 4年生編入学生のみ履修
	接合工学・複合材料	1					1	
	金属熱処理論	1					1	
	専門基礎（材料システム工学）	2			2			
	材料工学概論	1				1		
		選択科目修得小計	1 ^{以上}				1 ^{以上}	
	専門科目修得合計	89 ^{以上}	6	9	19	55 ^{以上}		
修得単位数総計								
一 般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専 門	必修科目	88	6	9	19	27	27	
	選択科目	1 ^{以上}				1 ^{以上}		
	小計	89 ^{以上}	6	9	19	55 ^{以上}		
	総修得単位数	167 ^{以上}	32	35	35	65 ^{以上}		

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけでなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。



2. 特色

専攻科は少人数定員の特性を活かした充実した教育研究環境を備え、本科との継続性を重視した教育を行っています。

なお、修得した工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを体験させるためインターンシップを選択科目に設け、実践的技術者としての資質を高める教育課程を設定しています。

また、工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行う創造工学実験を必修科目に設けることで、自主性、創造性並びに行動力の向上を図っています。

3. 教育目的

次のような実践的、創造的技術者の育成を目的とする。

- 1 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- 2 創造的研究開発能力を持った技術者
- 3 国際化に対応できる技術者

4. 専攻ごとの教育目標

◆ 機械・電気システム工学専攻

機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者を育成する。

◆ 物質工学専攻

有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者を育成する。

5. コースごとの教育目標

◆ 機械工学コース

- 1 技術者倫理
 - 1-1 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - 1-2 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - 1-3 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- 2 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力
 - 2-1 数学に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-2 物理に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-3 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
- 3 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成
 - 3-1 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-2 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-3 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-4 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-5 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- 4 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
 - 4-1 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - 4-2 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- 5 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- 6 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- 7 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
 - 7-1 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - 7-2 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- 8 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

◆ 制御情報工学コース

- 1 技術者としての広い視野と倫理観
 - 1-1 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
 - 1-2 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- 2 基礎工学の知識と応用力
 - 2-1 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - 2-2 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- 3 専門工学の知識と応用力
 - 3-1 制御、情報及びこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
 - 3-2 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
 - 3-3 前「3-1」の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- 4 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- 5 コミュニケーション力
 - 5-1 日本語での自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
 - 5-2 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- 6 実践力
 - 6-1 他者と協力して課題に取り組むことができる。
 - 6-2 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
 - 6-3 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

◆ 電気電子工学コース

- 1 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - 1-1 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - 1-2 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- 2 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - 2-1 ICT電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - 2-2 ICT電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- 3 もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - 3-1 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - 3-2 実験データを解析、考察し説明できる。
 - 3-3 共同で実験・演習を遂行できる。
- 4 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - 4-1 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - 4-2 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- 5 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - 5-1 分かりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - 5-2 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- 6 技術者倫理感覚の育成
 - 6-1 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - 6-2 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- 7 企画・管理能力の育成
 - 7-1 産業や社会との連携活動や実験・実習の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - 7-2 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

◆ 生物応用化学コース

- 1 技術者倫理と多面的視野
 - 1-1 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
 - 1-2 地球規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- 2 生物応用化学基礎と工学基礎
 - 2-1 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
 - 2-2 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。
- 3 生物応用化学の専門知識と応用力
 - 3-1 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識及び両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
 - 3-2 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術及び両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- 4 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- 5 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- 6 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- 7 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

◆ 材料工学コース

- 1 自然科学及び情報処理技術に関する知識
 - 1-1 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。
 - 1-2 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。
- 2 材料に関する基礎的知識と応用力
 - 2-1 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。
 - 2-2 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付ける。
 - 2-3 材料に関する基礎的知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。
- 3 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる能力を身に付ける。
- 4 調査及び実行能力
 - 4-1 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。
 - 4-2 計画性を持って物事に取組み、実行する能力を身に付ける。
 - 4-3 課題の結果を間違いの少ない文章及び口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。
- 5 外国に関する知識及び国際的コミュニケーションの基礎能力を身に付ける。
- 6 多面的視野と技術者倫理
 - 6-1 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。
 - 6-2 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。
- 7 インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考える能力を身に付ける。

6. 教育課程

(1) 各専攻・コース共通

		授業科目	授業形態	単位	学年別配当		備考
					1年次	2年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	講義	2	2		
		実践英語Ⅱ	講義	2	2		
		実践英語Ⅲ	講義	2		2	
	一般科目必修単位計			6	4	2	
	選択	日本語コミュニケーション	講義	2		2	2単位以上修得
		生涯スポーツ特論	講義	2		2	
		産業財産権特論	講義	2	2		4単位以内
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2		
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2		2	
	一般科目選択開設単位計			10	4	6	
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2		
		現代物理学	講義	2	2		
		応用情報処理演習	演習	2	2		
		専門基礎科目必修単位小計			6	6	0
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2		10単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		
		教養化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	
		専門基礎科目選択開設単位小計			20	12	8
専門基礎科目開設単位計			26	18	8		
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			42	26	16		

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目	授業形態	単位数	学年別配当		備考		
			1年次	2年次			
創造工学実験	実験	2	2				
技術英語	演習	1		1			
先端工学特論	演習	1	1				
専攻科研究基礎	実験	5	5				
専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
専門科目必修単位数小計		19	8	11			
弾塑性力学	講義	2	2		A	*	*
破壊力学	講義	2	2		A	*	*
応用流体力学	講義	2	2		A	*	*
生産加工学	講義	2		2	A	*	*
移動現象論	講義	2	2		A	*	*
計算力学	講義	2		2	A	S	*
設計システム工学	講義	2	2		A	*	E
メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E
システム制御工学	講義	2	2		A	S	E
デジタル制御	講義	2	2		A	S	E
トライボロジー解析学	講義	2		2	A	*	*
コンピュータグラフィックス	講義	2		2	*	S	*
パターン認識	講義	2		2	*	S	*
形式言語とオートマトン	講義	2	2		*	S	E
データベース	講義	2	2		*	S	*
コンピュータサイエンス	講義	2		2	*	S	E
応用電磁気学	講義	2	2		*	S	E
光エレクトロニクス	講義	2		2	*	*	E
集積回路工学	講義	2	2		*	*	E
デジタル信号処理	講義	2	2		*	S	E
プラズマ工学	講義	2		2	*	*	E
機械工学特論	講義	2	2		集中講義		
電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義		
制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義		
専攻科インターンシップ	実習	2	2		A	S	E
専門科目選択開設単位数小計		50	32	18	A、S、Eの各区分30単位から14単位以上、修得のこと。		
専門科目開設単位数計		69	40	29			
全開設単位数合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		111	66	45			
全科目修得単位数合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		63単位以上					
全開設単位数合計 (機械工学系)		89	56	33			
全開設単位数合計 (制御情報系)		89	54	35	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位数合計 (電気電子系)		89	56	33			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目	授業形態	単位数	学年別配当		備考		
			1年次	2年次			
創造工学実験	実験	2	2				
技術英語	演習	1		1			
先端工学特論	演習	1	1				
専攻科研究基礎	実験	5	5				
専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
専門科目必修単位数小計		19	8	11			
有機反応化学	講義	2	2		C	*	
有機構造化学	講義	2		2	C	*	
生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
生体物質化学	講義	2	2		C	*	
化学工学特論	講義	2		2	C	*	
機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
分子生物学	講義	2		2	C	*	
分子機能化学	講義	2		2	C	M	
高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
応用物理化学	講義	2		2	C	M	
機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
半導体材料	講義	2	2		*	M	
材料組織制御	講義	2		2	*	M	
構造材料学	講義	2	2		*	M	
触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
表面処理工学	講義	2	2		*	M	
高温強度学	講義	2		2	*	M	
輸送現象論	講義	2	2		*	M	
結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義		
材料工学特論	講義	2	2		集中講義		
専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
専門科目選択開設単位数小計		44	30	14	C及びMともそれぞれ28単位中14単位以上修得のこと。		
専門科目開設単位数計		63	38	25			
全開設単位数合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		105	64	41			
全科目修得単位数合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		63単位以上					
開設単位数合計 (生物応用化学系)		87	52	35	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
開設単位数合計 (材料工学系)		89	56	33			

※Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

図書館

1. 概略

1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内にはDVD等を鑑賞できるAVルームや直木賞作家であり本校の卒業生である安部龍太郎氏のコーナーを設置しています。閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。

2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数

令和4年4月1日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	3,540	5,124	5,832	5,149	15,751	16,715	469	2,481	2,407	11,126	17,038	85,632
洋書	97	23	74	73	2,147	1,500	15	7	1,582	1,012	226	6,756
合計	3,637	5,147	5,906	5,222	17,898	18,215	484	2,488	3,989	12,138	17,264	92,388

(2) データベース・電子ジャーナル

令和4年4月1日現在

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会 (American Institute of Physics) の電子ジャーナル
APS	米国物理学会 (American Physical Society) の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供 (JOIS の Web 版) データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文書誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会 (American Chemical Society) の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス
Science	アメリカ科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science) の電子ジャーナル



学生相談室・保健室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員（教員）・看護師・カウンセラー・ソーシャルワーカー・精神科医（必要に応じて来校）で構成されています。

カウンセラー及びソーシャルワーカー並びに精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室



保健室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは“ものをつくる基礎技術”をベースに、IT 技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。

従来の基礎的な実習（木型、鋳造、鍛造・溶接、機械加工・手仕上げ）を行う設備を確保しつつ、レーザー加工機や NC 工作機械を導入し、IT 技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境です。



総合情報センター

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、本校の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務の合理化を推進しています。



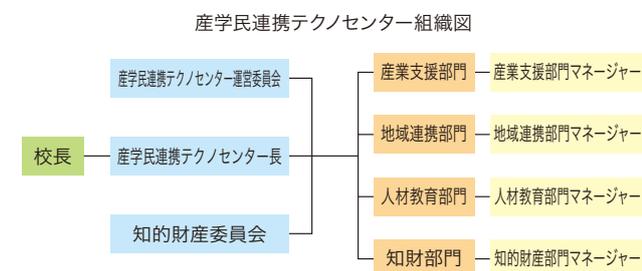
第1 IT 演習室



多目的室

産学民連携テクノセンター

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進行に資することを目指します。



産学民連携テクノセンターのミッション

》 地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。

また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》 地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を解説しています。

》 初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》 大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》 教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

キャリア支援室は、「低学年から高学年までの高専生活全体に渡る、就職・進学を網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的として活動しています。学生の進路指導は、就職主任の教員や5年担任の教員を中心に、各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした細やかな指導や助言を行っています。各学科には、学生が就職・進学に関する情報を自由に閲覧、アクセスできるようにするために、進路指導室やスペースを設け進学・就職の関連資料を提供しています。

学校行事としての本科4年時における工場見学旅行の他に関係部門と協力しながら次のような取り組みを実施しています。

- (1) 本科及び専攻科インターンシップ
- (2) 卒業生・修了生によるキャリア教育講演会や企業説明会
- (3) 大学編入や大学院進学の実績がある大学等による説明会
- (4) キャリアアップセミナーなどの講演会
- (5) TOEIC や SPI 模試など進路に関する試験

進路選択のさらなるサポートと共に、学生の将来の目標を見据えた、日々の学習のモチベーションアップも目指しています。



3年生を対象としたキャリアアップセミナー



進路指導・資料用スペース（材料システム工学科）の例

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、久留米高専設立当初から続く伝統のある寮です。また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。主にアジア圏からの留学生を含め163名(男子133名、女子30名)の寮生が生活を共にしています。

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む、寮生会役員が中心となって行われております。勉学以外にも、寮生会が中心となって、寮祭、防災訓練、外部寮視察、テーブルマナー講習会、ヘルスチェックキャンペーン等、一年を通して様々な活動を行っています。

寮の出入口はオートロック方式で警備され、3年生までは二人部屋、4年生以上は個室です。エアコンも完備され、インターネットへのアクセスも可能です。寮内の食堂では、栄養のバランスを考慮した食事が提供されており、健康で安心して生活できるよう配慮されています。



筑水寮居室



つつじ寮居室



寮食堂

2. 入寮者数

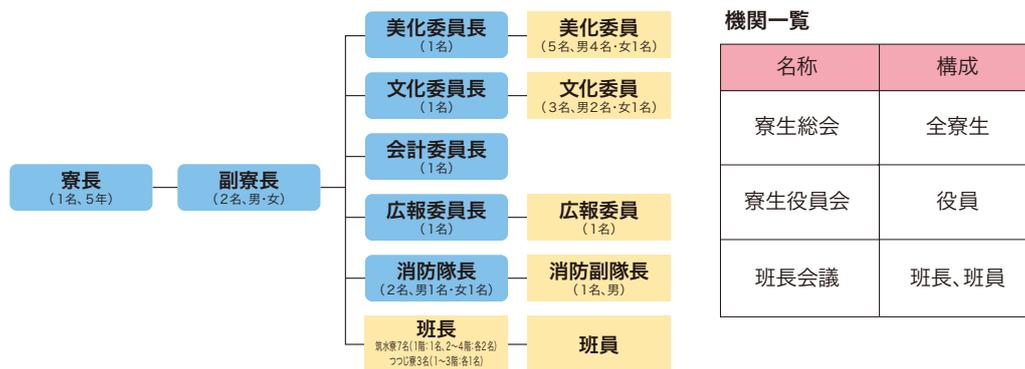
令和4年4月1日現在

区分	本科					専攻科		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
男	28 (0)	23 (0)	28 (2)	32 (3)	16 (1)	3 (0)	3 (0)	133 (6)
女	9 (0)	6 (0)	8 (0)	4 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	30 (1)
合計	37 (0)	29 (0)	36 (2)	36 (2)	19 (2)	3 (0)	3 (0)	163 (7)

※ () 内の数値は留学生数で内数。

3. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会が中心となって行われています。



4. 年間行事

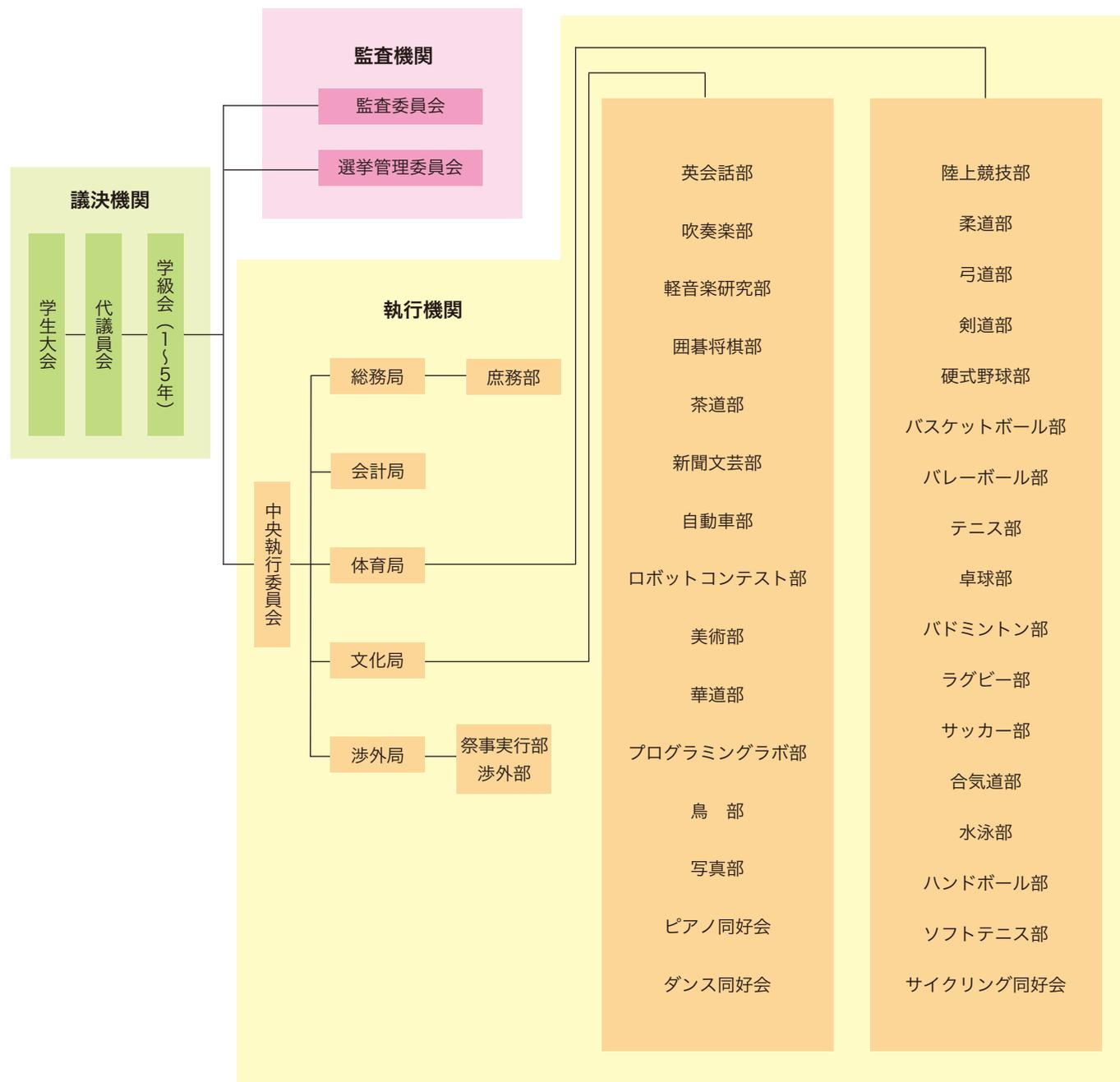
4月	開寮 ・新入寮生保護者説明会 ・対面式・寮生会 ・ゴミ分別講習会 ・寮祭 ・第1回食堂&寮生会懇談会 ・避難訓練	5月	体験入寮 ・ヘルスチェック キャンペーン	6月	テーブルマナー講習会 ・第2回食堂& 寮生会懇談会	7月	大掃除	8月	閉寮	9月	開寮
10月	第3回食堂&寮生会懇談会 ・非常食シュミレーション ・防災訓練	11月	料理教室	12月	第4回食堂&寮生会懇談会 ・寮祭 ・大掃除 ・閉寮	1月	開寮 ・寮成人式 ・寮生総会	3月	閉寮		

※新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる可能性あり

学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社會人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事

4月・部活動紹介

5月・学生大会
・クラスマッチ

6月・文化部発表会
・献血
・ビジネスマナー講習会

8月・校内・地域の清掃活動

11月・高専祭
・クラスマッチ

12月・学生大会

1月・予餞会
・献血

3月・清掃活動

※新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる可能性あり

入学・在学状況

1. 定員・現員

令和4年5月1日現在

学科等	入学定員	総定員	現員					計
			1年	2年	3年	4年	5年	
本科	200	1,000	212 (44) [-]	219 (56) [-]	221 (47) [2]	213 (51) [3]	185 (48) [2]	1,050 (246) [7]
機械工学科	40	200	44 (6) [-]	48 (6) [-]	40 (3) [-]	47 (9) [-]	32 (4) [-]	211 (28) [-]
電気電子工学科	40	200	42 (4) [-]	43 (2) [-]	41 (4) [-]	44 (6) [1]	39 (2) [-]	209 (18) [1]
制御情報工学科	40	200	42 (3) [-]	43 (8) [-]	43 (4) [1]	43 (9) [1]	38 (7) [1]	209 (31) [3]
生物応用化学科	40	200	40 (17) [-]	42 (27) [-]	49 (25) [1]	41 (14) [-]	36 (17) [1]	208 (100) [2]
材料工学科							1 (-) [-]	1 (-) [-]
材料システム工学科	40	200	44 (14) [-]	43 (13) [-]	48 (11) [-]	38 (13) [1]	39 (18) [-]	212 (69) [1]
専攻科	20	40	38 (6) [-]	41 (3) [-]				79 (9) [-]
機械・電気システム工学専攻	12	24	26 (2) [-]	25 (-) [-]				51 (2) [-]
物質工学専攻	8	16	12 (4) [-]	16 (3) [-]				28 (7) [-]

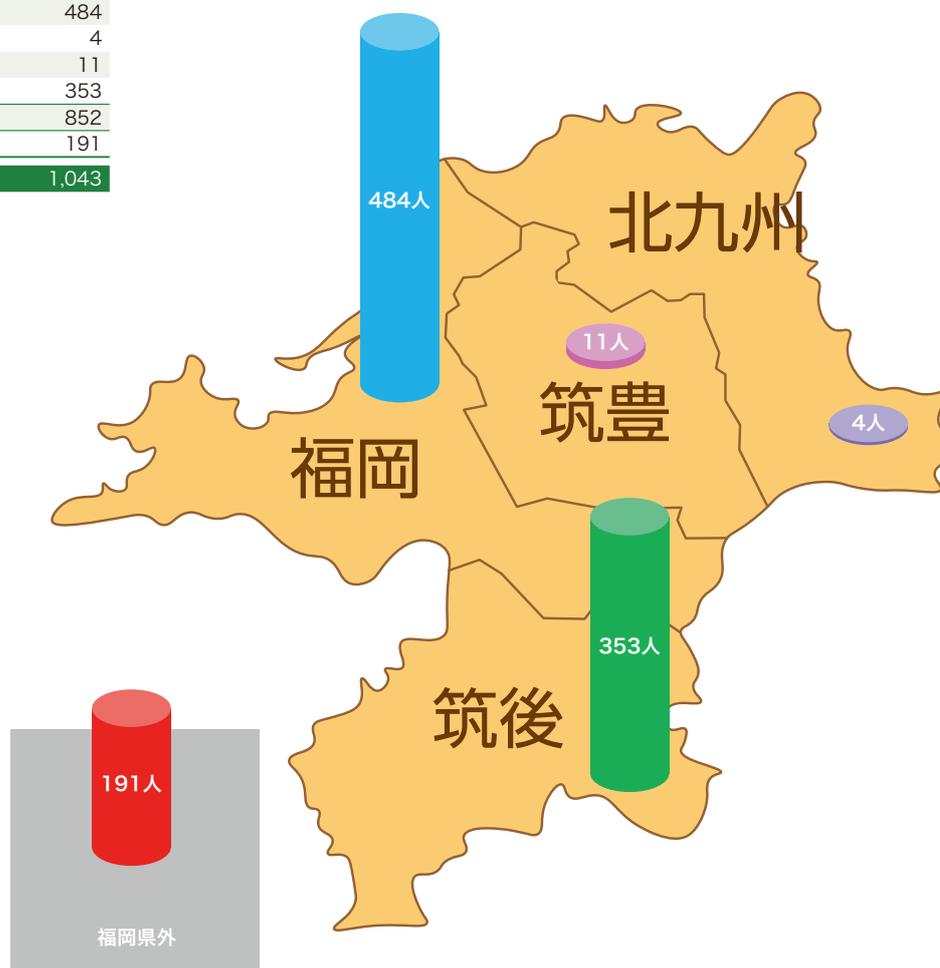
() は女子数で内数
[] は留学生数で内数

2. 出身中学別学生数

令和4年5月1日現在

出身中学所在地		学生数
福岡県内	福岡地域	484
	北九州地域	4
	筑豊地域	11
	筑後地域	353
県内小計		852
福岡県外		191
総合計		1,043

※留学生は除く。



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数 (令和3年度)

	本科						専攻科		
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者	49 (6)	39 (1)	44 (7)	42 (18)	35 (6)	209 (38)	21 (3)	12 (3)	33 (6)
内 就職	28 (5)	15 (0)	26 (5)	16 (9)	20 (2)	105 (21)	16 (2)	7 (3)	23 (5)
内 進学	18 (1)	19 (1)	17 (1)	24 (9)	14 (3)	92 (15)	5 (1)	5 (0)	10 (1)
内 その他	3 (0)	5 (0)	1 (1)	2 (0)	1 (1)	12 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

() は女子で内数

2. 進学状況 (令和3年度)

(1) 本科

進学先	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計
千葉大学 工学部	1				1	2
東北大学 工学部		1				1
長岡技術科学大学				1		1
静岡大学 工学部		1				1
豊橋技術科学大学	2	1		5	1	9
名古屋大学 工学部	1					1
広島大学 生物生産学部				1		1
九州大学 経済学部				1		1
九州大学 工学部	3			4	1	8
九州工業大学 工学部	1	3			1	5
九州工業大学 情報工学部			4		1	5
佐賀大学 農学部				5		5
熊本大学 工学部		1	2	1	2	6
鹿児島大学 工学部	1					1
下関市立大学 経済学部		1				1
室蘭工業大学 理工学部	1					1
北海道大学 工学部	1					1
東京理科大学 理学部				1		1
中央大学 理工学部	1					1
東京都立大学 理工学部	1					1
安達文化学園専門学校ビジョナリーアーツ			1			1
本校専攻科	5	11	10	5	7	38
合計	18	19	17	24	14	92

(2) 専攻科

進学先	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
東京工業大学大学院	2	2	4
大阪大学大学院	1		1
九州大学大学院	1	1	2
奈良先端科学技術大学院大学		2	2
東京大学大学院	1		1
合計	5	5	10

3. 就職状況

(1) 本科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率 (%)
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計	
平成29年度	115	3,580	31	37	17	47	14	115	100%
平成30年度	87	3,787	44	25	8	42	12	87	100%
令和元年度	94	3,675	39	17	19	51	7	94	100%
令和2年度	98	3,501	36	19	12	57	7	98	100%
令和3年度	107	3,318	31	37	12	43	13	105	98%

(2) 専攻科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率 (%)
				福岡県内	福岡県外	計	
平成29年度	8	1,286	161	0	7	7	88%
平成30年度	13	1,335	103	3	10	13	100%
令和元年度	9	1,304	145	3	6	9	100%
令和2年度	19	1,311	69	5	14	19	100%
令和3年度	23	1,249	54	4	19	23	100%

(3) 産業別就職状況 (令和3年度)

区分	学科	本科					専攻科			
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業				1		1			0
	印刷・同関連業			2			2			0
	化学工業・石油・石炭製品製造業	5			12	3	20	1	2	3
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	5			1	6	12	1		1
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	4	1		5	2	12	3	1	4
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	2	2		2	2	8	3		3
	電気・情報通信機械器具製造業		1		2		3	1		3
	輸送用機械器具製造業	4	1		2	2	9		2	2
	その他の製造業					2	2			0
	建設業	2	2				4			0
電気・ガス・熱供給・水道業	1	4				5			0	
情報通信業		2	14			16	4		4	
運輸業・郵便業	1	1	1			3			0	
卸売業・小売業		1				1			0	
金融業・保険業						0	1		1	
学術研究・専門・技術サービス業	3			1	2	6		2	2	
生活関連サービス業・娯楽業				1		1			0	
公務	1				1	2			0	
合計	28	15	26	16	20	105	16	7	23	

(4) 主な就職先機関名称 (令和3年度)

本科		専攻科			
機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計
日産自動車株式会社	株式会社日産オートモーティブテクノロジー	株式会社安川電機	旭化成株式会社	日産自動車株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
株式会社トヨタログクシオンエンジニアリング	住友エレクトロニクス株式会社	ダイキン工業株式会社	小川香料株式会社	日本精工株式会社	リニークローバルマニュファクチャリング
東海旅客鉄道株式会社	住友電設株式会社	SUBARU テクノ株式会社	協和発酵バイオ株式会社	日本精工九州株式会社	& オペレーション株式会社
株式会社安川電機	西部電機株式会社	CTC システムマネジメント株式会社	KM バイオロジクス株式会社	三井金属鉱業株式会社	住友電気工業株式会社
株式会社ニコン	九州電力株式会社	京セラコミュニケーションシステム株式会社	株式会社資生堂	株式会社アールスティ	株式会社安川電機
株式会社 LIXIL	九電テクノシステムズ株式会社	富士フィルムビジネスソリューション株式会社	昭栄化学工業株式会社	株式会社 LIXIL	株式会社 LIXIL
株式会社 SUMCO	ローム・アポロ株式会社	キャノンシステムアンドサポート株式会社	住友電気工業株式会社	京セラ株式会社	三菱電機システムサービス株式会社
株式会社九電工	住友電設株式会社	九電テクノシステムズ株式会社	大日精化工業株式会社	東洋インキSCホールディングス株式会社	第一三共ケミカルファーマ株式会社
日本精工九州株式会社	日本放送協会	株式会社栄電舎	大日精化工業株式会社	大日精化工業株式会社	日本精工株式会社
西部電機株式会社	株式会社 J-POWER ハイテック	I-PEX 株式会社	東洋インキSCホールディングス株式会社	MHIソリューションテクノロジ株式会社	株式会社 三井化学分析センター株式会社 ジェイテクト

研究活動

1. 産学連携

(金額単位：千円)

制度名	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	13	12,019	15	11,804	13	12,660	8	5,478	7	3,941
受託研究	2	1,304	0	0	0	0	0	0	0	0
奨学寄附金	18	12,679	19	8,980	15	9,130	15	10,502	14	10,303

※奨学寄附金には、創基 75 周年・高専創立 50 周年記念基金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金

(金額単位：千円)

種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究 (C)	高等学校における ESD と大学における異文化コミュニケーション教育の接続と開発	平成31年度～令和4年度	一般科目 (文科系)	教授	横溝 彰彦	期間延長
	軽油・重油へのファインパブル添加による燃費改善および排ガスクリーン化	令和2年度～令和4年度	機械工学科	教授	中武 靖仁	520
	赤外線カメラを用いたレドックスフロー電池のセル内流動状態の可視化	令和2年度～令和4年度	機械工学科	教授	田中 大	650
	囲込み制御理論の進展と安全接触可能な高応答多リンクシステムの開発と応用	令和2年度～令和4年度	機械工学科	准教授	南山 靖博	780
	ネットワークシステム実習教育機器の GNS3 による仮想化とその機能拡張	令和2年度～令和4年度	電気電子工学科	特任教授	加藤 直孝	910
	11 ノルム損失における畳み込み型スパース表現と分散圧縮符号化・深層学習への展開	令和2年度～令和4年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	1,040
	AI 技術を用いた日本人英語学習者のためのリーダビリティ予測モデルの開発	令和2年度～令和4年度	制御情報工学科	准教授	中野 明	260
	オプトジェネティクスを促進するピリン色素合成酵素ライブラリの構築	令和2年度～令和4年度	生物応用化学科	准教授	萩原 義徳	910
	ヒト運動抑制機能へ運動強度が及ぼす影響について	令和2年度～令和4年度	一般科目 (文科系)	准教授	赤塚 康介	130
	揚・抗力型ハイブリッドによる高出力・高稼働率垂直軸風車のフィジビリティスタディ	令和3年度～令和5年度	機械工学科	教授	谷野 忠和	1,300
	意味構造と統語構造の統合学習を用いた文書作成支援アプリケーションの開発	令和3年度～令和5年度	制御情報工学科	教授	小田 幹雄	520
	道路損傷検出及び地図更新のための自己学習型車載スマートビジョンシステムの開発	令和3年度～令和5年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	1,040
	ゴム分解微生物の分解遺伝子特定に関する研究	令和3年度～令和5年度	生物応用化学科	教授	笈木 宏和	2,080
	長波長領域に長寿命発光を示す会合性リン光色素群の創出	令和3年度～令和5年度	生物応用化学科	教授	石井 努	1,040
	「東地中海地域圏」の構築—13-14 世紀のジュチ・ウルスを中心に—	令和3年度～令和5年度	一般科目 (文科系)	准教授	岡本 和也	520
	マルチメディアと AI による数学の深い学びへの誘いとその効果の検証	令和3年度～令和5年度	一般科目 (理科系)	教授	酒井 道宏	520
	大気中のラマン散乱現象を利用したレーザービーム品質の非接触モニタリング	令和4年度～令和6年度	電気電子工学科	教授	宮崎 浩一	2,990
	ナノスケール超空間でのアーキテクトニクス分子センシングシートの創成	令和4年度～令和6年度	材料システム工学科	教授	奥山 哲也	1,690
	二酸化炭素の発生を抑えた鋼の新規浸炭法の提案と応用	令和4年度～令和6年度	材料システム工学科	教授	森園 靖浩	2,340
インド洋におけるマダガスカル島の奴隷貿易と奴隷制度の役割	令和4年度～令和6年度	一般科目 (文科系)	准教授	藍澤 光晴	520	
楕円ファイバーカーラビ-ヤウ空間における非小平面特異点の研究	令和4年度～令和6年度	一般科目 (理科系)	准教授	谷 太郎	910	
ポストコロナ時代に自ら学ぶ姿勢を涵養する数学オンライン学習スタイルの構築	令和4年度～令和6年度	一般科目 (理科系)	准教授	菰田智恵子	780	
挑戦的研究 (萌芽)	With コロナ新時代のアナログ手法と ICT を活用した課題解決型実験ノート指導	令和3年度～令和5年度	電気電子工学科	教授	越地 尚宏	1,040
若手研究	自己組織化マップを用いた眼底血管の形状分類による脳卒中リスクの推定	平成31年度～令和4年度	制御情報工学科	助教	古賀 裕章	1,170
	超音速粒子衝突による光触媒酸化チタン粒子の固定化	令和2年度～令和5年度	機械工学科	助教	渡邊 悠太	520
	ニューロン MOSFET を用いた最小ユークリッド距離検索連想メモリに関する研究	令和2年度～令和4年度	電気電子工学科	助教	原田裕二郎	1,170
	遮熱特性に優れた非クロム系複合酸化顔料の創製	令和2年度～令和4年度	材料システム工学科	助教	小袋 由貴	780
	台車型倒立振子の特性値再測定を要しないカスケード型 LADRC の安定解析とその応用	令和3年度～令和5年度	制御情報工学科	准教授	田中 諒	520
	炭素の含酸素官能基の存在位置・種類・量の制御による炭素アクティブサイトの創製	令和3年度～令和5年度	生物応用化学科	准教授	我部 篤	650
	簡易延命手法のき裂 / 焼結体界面の最適設計と高サイクル疲労特性向上	令和3年度～令和5年度	材料システム工学科	助教	佐々木大輔	650
村山知義を基軸とした演劇運動史に関する基礎的研究	令和3年度～令和4年度	一般科目 (文科系)	准教授	鴨川 都美	910	
研究活動スタート支援	口絵デジタルアーカイブ拡充と明治期出版文化研究への活用	令和2年度～令和3年度	一般科目 (文科系)	助教	常木 佳奈	期間延長

※金額：令和4年度受入額 (直接経費 + 間接経費)

※令和4年度実施課題を記載

(2) その他の補助金

(金額単位：千円)

名称	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
(公財) マツダ財団マツダ研究助成	炭素表面に析出するアクティブサイトの制御による ORR 活性点の生成・消滅機構の解明と新規 ORR 触媒の開発	令和2年度～令和4年度	生物応用化学科	准教授	我部 篤	1,000
(公財) 吉田学術教育振興会学術奨励金	ポリイミドを炭素の原料とした新規非白金系燃料電池用空気極材料の開発	令和2年度～令和4年度	生物応用化学科	准教授	我部 篤	2,000

※令和4年度実施課題を記載

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、令和3年度は以下の公開講座を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加者数
10月	あなたも一日サイエンティスト（数学講座）	中学生	32
11月	金属アクセサリ－を作製しよう！	中学生	11
12月	心電計の製作と実験	中学生	6
3月	エレクトロニクススクール ライントレースカーを作ろう	中学生	17

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成24年10月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

令和3年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究3件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名
令和3年 4月	テクノネット久留米企業説明会 2021 開催
令和3年 5月	テクノネット久留米会員紹介ブック 2021 発行
令和3年 8月	図書寄贈事業「テクノネット久留米久留米文庫」
令和3年10月	令和3年度テクノネット久留米定時総会（書面開催）
令和3年11月	久留米高専米研究・開発シーズ育成奨励 事業採択者：機械工学科 青野准教授
令和4年 3月	テクノネット久留米キャリア講演会・企業説明会 2022

課外活動の主な実績

主な課外活動実績（令和3年度）

大会・コンテスト等名称	競技種目等詳細	成績
第56回全国高等専門学校体育大会	ラグビーフットボール	準優勝
第8回全国高等専門学校弓道大会	弓道（男子個人）	準優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会	ラグビーフットボール	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子100m	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子100m	第2位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子200m	第2位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子400m	第3位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子800m	第2位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 4×100mR	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 4×400mR	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子砲丸投	第2位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 男子円盤投	第3位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 女子100m	第2位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 女子800m	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	陸上競技 女子円盤投	優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	バレーボール 女子	準優勝
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	バレーボール 男子	第3位
第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会	バドミントン 女子ダブルス	第3位
KYFA 第28回九州高等専門学校U-19サッカー大会	サッカー	優勝
第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト		競技部門 第3位
第54回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト		プレゼンテーション部門 第2位
第15回「オリент世界」作文コンクール		入選

国際交流

1. 学生交流

(1) 留学生在籍状況

各年度4月1日現在（単位：名）

地域	国名	平成30年度	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度
アジア	インドネシア	2	1	2	1	2
	マレーシア	3	3	1	2	2
	モンゴル	2	4	4	4	2
	カンボジア	0	0	0	1	1
アフリカ	ガボン	1	0	0	0	0
合計		8	8	7	8	7

(2) 学生海外派遣実績

（単位：名）

地域	国名	平成30年度	令和元年	令和2年	令和3年
アジア	ベトナム、マレーシア、中国、タイ、韓国、シンガポール、インドネシア	19	26	0	0
オセアニア	オーストラリア	1	0	0	0
北米	カナダ	0	1	0	0
合計		20	27	0	0

2. 研究者交流

(1) 研究者受入実績（平成25～令和3年度）

国名	派遣元機関名称	受入人数（名）	受入学科	受入期間
タイ王国	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	制御情報工学科	H25. 5. 7～H25. 5.30
タイ王国	マハーサーラカム大学	1	材料工学科	H25.10. 1～H26. 3.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H26. 7. 1～H26.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27. 8. 1～H27.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28. 9. 4～H29. 9. 3
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク	1	制御情報工学科	R01. 9. 9～R01. 9.20

(2) 研究者渡航実績

（単位：名）

地域	主な国	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
アジア	中国、韓国、マレーシア、タイ王国、シンガポール、他5カ国	15	27	14	0	0
北米	アメリカ	2	2	0	0	0
欧州	イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、他7カ国	2	6	3	0	0
合計		19	35	17	0	0

大学等間交流協定

1. 海外

海外大学等との学術協定等締結状況

締結先機関名称	国	締結年月日	修了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7年10月 5日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8年 1月22日	無期限
レッドリバー・コミュニティーカレッジ	カナダ	平成 9年 2月 3日	令和 9年 2月 2日
ナンヤン・ポリテクニク	シンガポール	令和 3年12月20日	令和 6年12月19日
キングモンクット工科大学 情報学部	タイ	令和 4年 3月30日	令和 9年 3月29日
ペトロナス工科大学	マレーシア	平成26年 2月 6日	令和 6年 2月 5日
ガジャマダ大学	インドネシア	平成26年 2月 6日	令和 6年 2月 5日
ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	平成31年 3月29日	令和 6年 2月 5日
キングモンクット工科大学北バンコク校	タイ	平成26年 2月 7日	令和 6年 2月 6日
カセサート大学	タイ	平成26年 2月10日	令和 6年 2月 9日
ハノイ大学	ベトナム	平成26年 6月 9日	令和 6年 6月 8日
廈門理工学院	中国	平成26年 6月28日	令和 6年 6月27日
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成26年 8月 2日	令和 6年 8月 1日
国立台北科技大学	台湾	平成27年 3月 3日	令和 7年 3月 2日
ハノイ大学	ベトナム	平成27年 6月15日	令和 6年 6月14日
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	平成28年 3月 1日	令和 5年 2月28日
ダナン大学機構科学技術大学	ベトナム	平成29年 2月22日	令和 9年 2月21日

2. 国内

(1) 国内大学等との学術協定等締結状況

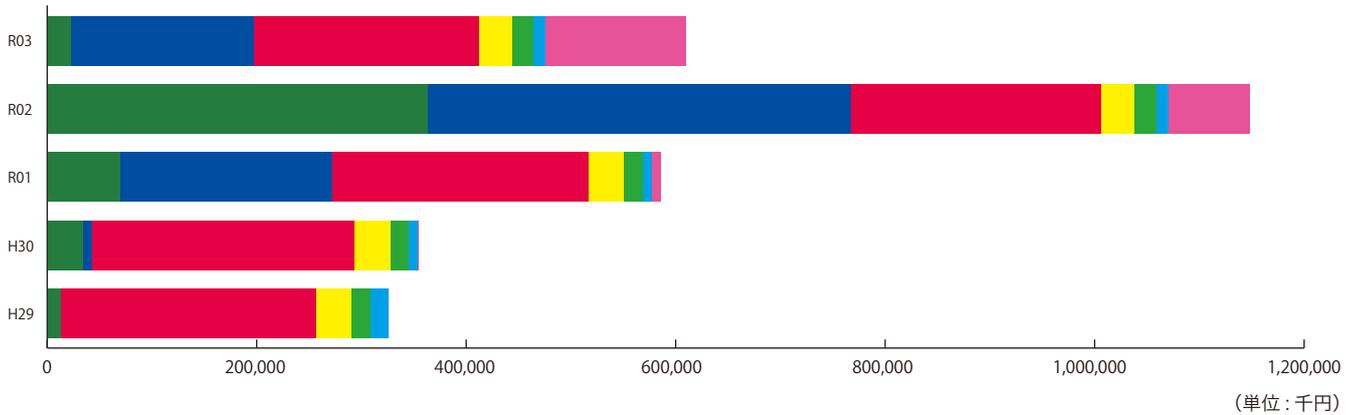
締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	修了年月日
久留米大学、久留米工業大学、 久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学	単位互換	平成16年 6月28日	令和 5年 3月31日
久留米工業大学、久留米大学、 聖マリア学院大学、久留米信愛女学院短期大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成21年12月17日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	令和 2年12月10日	令和 8年 3月31日
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成24年 3月27日	令和 5年 3月26日
有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、 佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、 大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、 鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校	単位互換	平成21年10月 1日	令和 5年 9月30日
九州大学大学院総合理工学府、 大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、 先導物質化学研究所	インターンシップ・共同研究	平成30年 1月11日	令和 5年 1月10日
九州大学工学系部局	インターンシップ・共同研究・連携教育の推進	平成30年12月 1日	令和 5年11月30日
久留米大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	令和元年 8月 1日	無期限
放送大学	単位互換	令和4年 3月 4日	令和 7年 3月31日

(2) 地方公共団体等との協定締結状況

締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	終了年月日
久留米市	事業協定	平成21年 3月31日	期限なし
日本歯車工業会	連携・協力	平成28年 5月20日	令和 5年 5月20日(1年毎更新)
日本ゴム協会九州支部	連携・協力	平成28年 7月 8日	令和 4年 7月 8日(1年毎更新)
久留米商工会議所	連携・協力	平成28年12月21日	令和 4年12月21日(1年毎更新)
久留米工業大学	連携・協力	令和 2年 6月 1日	期限なし

財務状況

1. 収入



科目\年度	H29	H30	R01	R02	R03	説明
運営費交付金	11,654	33,571	69,068	362,645	21,276	業務運営に必要な資金として国から交付されたもの
施設整備費補助金	0	8,316	202,574	404,828	175,615	本校の基盤施設整備のために国から交付されたもの
授業料収入	244,890	251,276	245,172	238,780	215,176	学生から納付された授業料
その他自己収入	33,258	34,004	33,552	31,836	31,621	本校が受け入れた検定料、入学金、寄宿料等
産学連携等収入	18,411	18,202	18,298	21,223	20,073	産学官連携事業を実施するために受け入れた現金など
寄付金収入	17,158	7,830	8,657	11,403	11,819	本校の業務を財政的に支援するために寄附された現金等
その他補助金	615	1,617	8,727	78,383	133,955	特定の事業を実施するために国等から交付されたもの
合計	325,986	354,816	586,048	1,149,098	609,535	

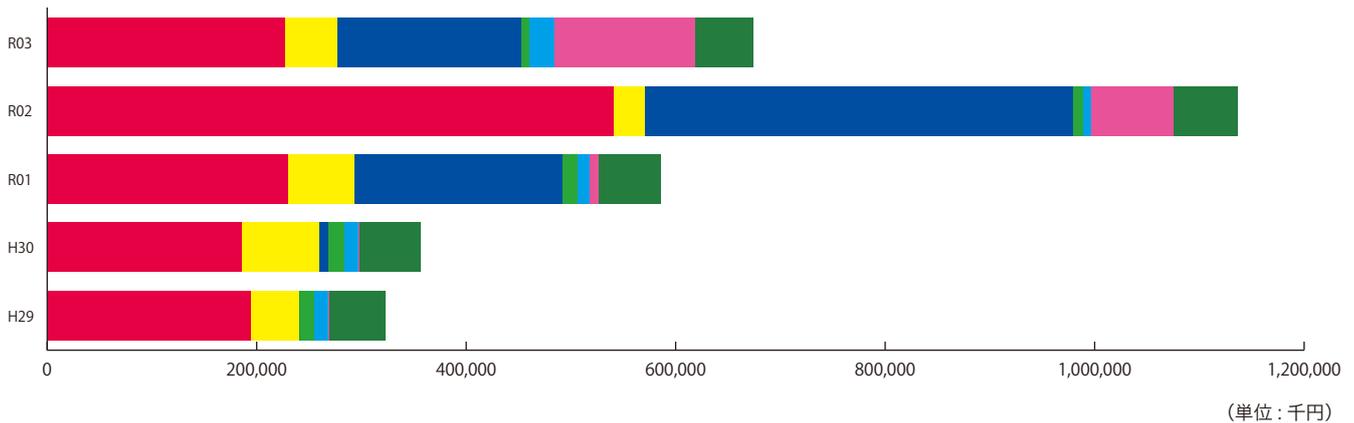
※1 令和元年度の施設整備費補助金は、一般文科・理科棟改修費等。

※2 令和2年度の施設整備費補助金は、ものづくり教育センター改修工事費等、同年度の運営費交付金は、前述工事に伴う移転費等。

※3 令和3年度の施設整備費補助金は、ライフライン再生、(給排水設備)工事費。

※4 常勤教職員の人件費については、(独)国立高等専門学校機構本部の収入予算に計上しているため上記項目の運営費交付金には含まれていない。

2. 支出



科目\年度	H29	H30	R01	R02	R03	説明
教育研究費	193,670	185,058	229,207	540,280	226,816	教育及び研究に要した金額
一般管理費	46,896	74,423	64,129	30,270	49,587	管理部門に要した金額
施設整備費	0	8,316	198,370	409,032	175,615	施設整備費補助金の対象事業に要した金額
産学連携等研究経費	13,578	15,390	14,601	9,552	8,399	産学官連携事業に要した金額
寄付金事業費	14,267	13,340	10,792	8,314	23,652	寄附金で執行した金額
その他補助金	615	1,617	8,727	78,281	133,847	その他補助金で執行した金額
人件費	53,129	58,244	60,213	61,083	56,264	非常勤教職員に係る人件費
合計	322,155	356,388	586,039	1,136,812	674,180	

※1 令和2年度の教育研究費は、ものづくり教育センター改修工事に伴う移転費を含む。

※2 常勤教職員の人件費については、(独)国立高等専門学校機構本部の支出予算に計上しているため上記項目の人件費には含まれていない。

施設状況

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舍
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
101,592㎡	69,157㎡	25,649㎡	4,800㎡	99,606㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)	
校舎等施設	機械・材料システム工学科棟	R4	2,799	校舎等施設	物品庫	R1	32	
	D1・D2 講義室	R1	180		燃料庫	R1	20	
	D3・D4 講義室	R1	370		変電室	R1	79	
	ものづくり教育センター	R2	1,939		事務部倉庫	R1	54	
	熱・材力実験棟	R2	601		記念館	R1	252	
	流体実験室	R2	264		校舎等施設 小計			20,552
	材料実習棟	R2	405		図書館・体育施設等	図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720			第一体育館	S1	1,121
	電気室	R1	38			第二体育館	RS1	880
	制御情報工学科棟	R3	793			武道場	R2	450
	専門教室棟	R3	663	練心館 (合宿研修所)		R2	223	
	生物応用化学科棟	R4	1,605	学生部室		S1	612	
	生物応用化学北別館	R4	521	弓道場		W1	238	
	一般教室棟	R3	1,437	体育器具庫		S1	180	
	一般文科・理科棟	R3	1,559	ウェーブホール		S1	519	
	一般共通棟	R2	419	プール棟		R1	209	
	専攻科棟	R3	1,202	図書館・体育施設等 小計			6,134	
	産学民連携リサーチセンター	R1	438	学生寮施設		学生寄宿舍 (筑水寮)	R4	3,002
	生物・化学実験棟	R1	300		学生寄宿舍 2号館 (筑水寮)	R4	781	
	産学民連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舍 (つつじ寮)	R3	578	
	管理棟	R2	1,156	学生寮施設 小計			4,361	
	守衛室	R1	20	職員宿舍施設	職員宿舍 (7戸)	W1	581	
	車庫	R1	122	総 計			31,628	
中央ボイラー室	R1	151						

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。



食堂



売店



外観

(2) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設定から数えて40周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。

展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。



和室



展示



外観

3. 配置図

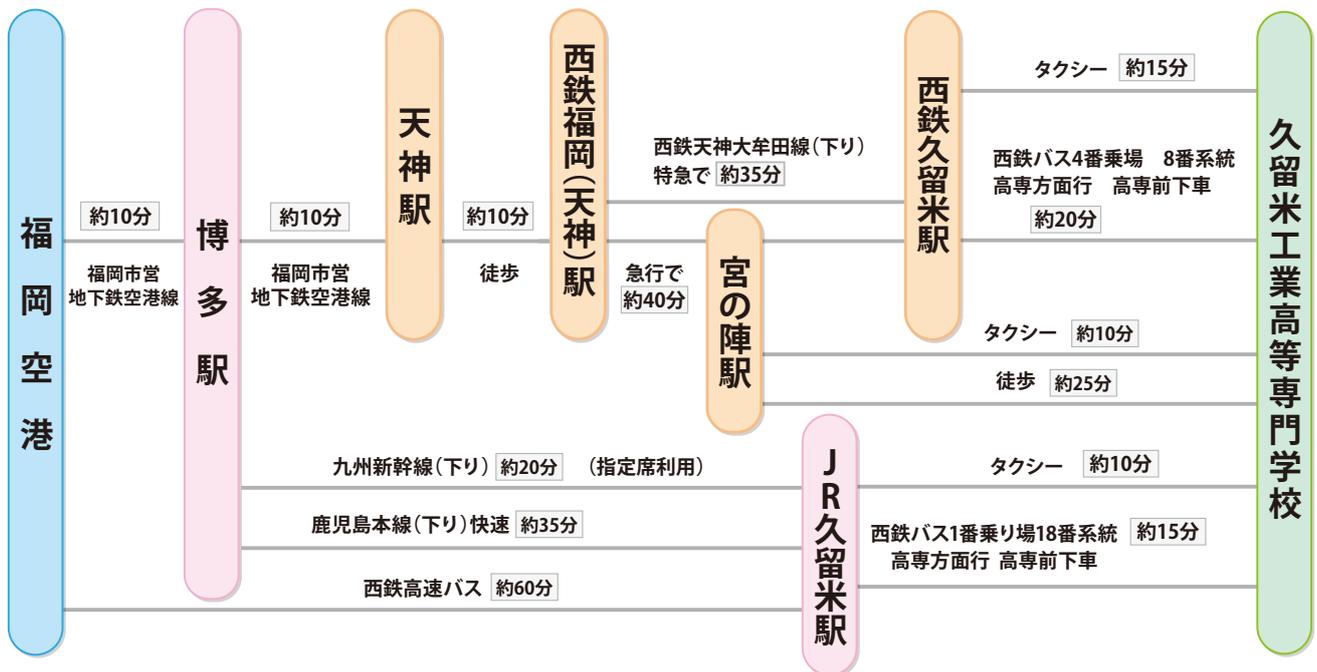
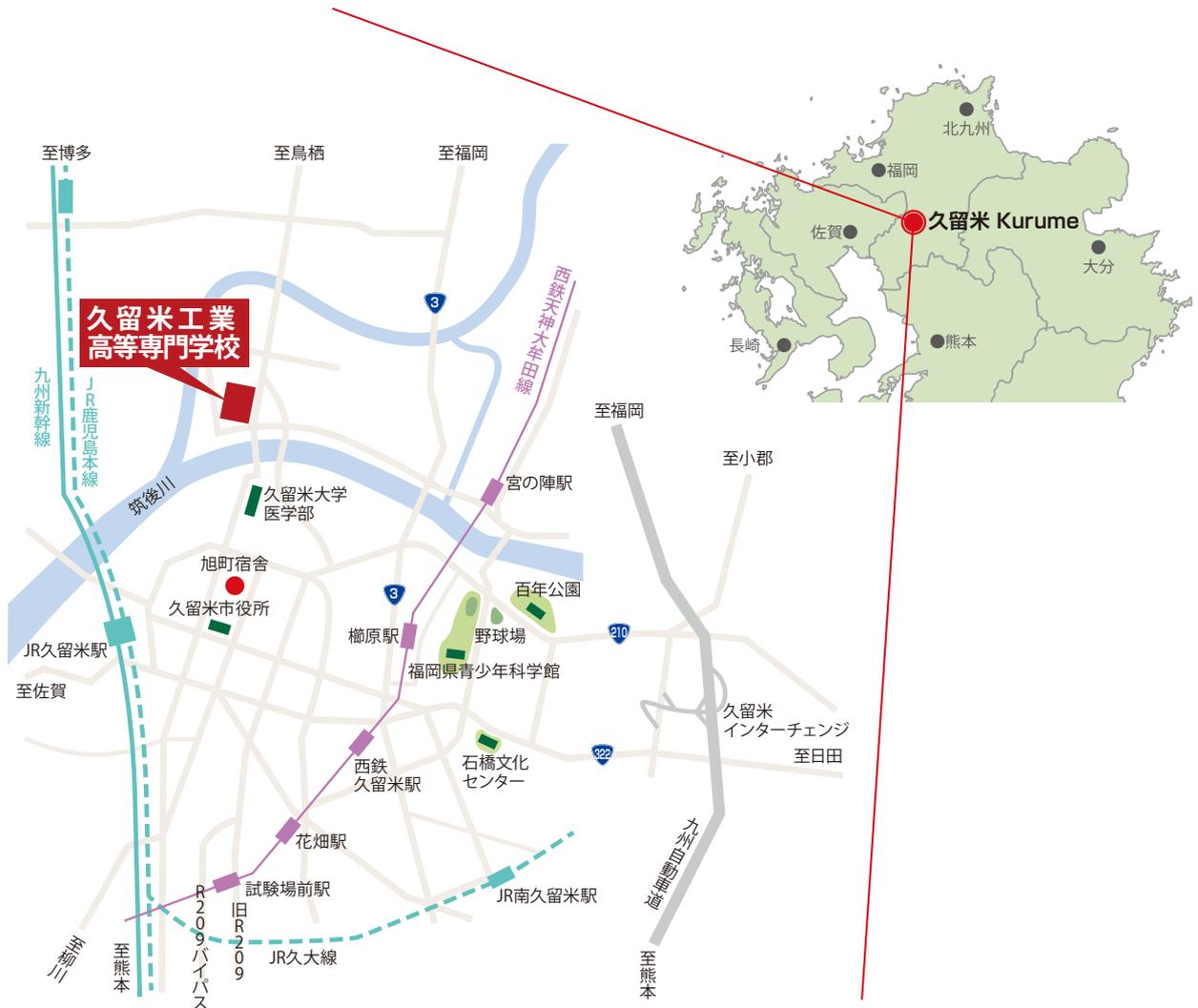
キャンパスマップ Campus Map



管理・支援	総務課(受付)	S03	管理棟
	学生相談室・保健室	S03	管理棟
	学生課	S02	一般共通棟
	図書館・総合情報センター	S07	図書館・総合情報センター
	産学連携テクノセンター	S05	産学連携テクノセンター
教員室	産学連携リサーチセンター	E01	産学連携リサーチセンター
	同窓会事務局・会議室	E04	記念館
	後援会事務局	M04	専門教室棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		S02	一般共通棟
実験室	機械工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
	制御情報工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		M01	制御情報工学科棟
	生物応用科学科	M03	生物応用化学科棟
	材料システム工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
	機械工学科	N05, N08	ものづくり教育センター
		N04	熱・材力実験棟
		N07	流体実験棟
	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E02	電子工作室
		N05	ものづくり教育センター
	制御情報工学科	M01	制御情報工学科棟
	E03	電気電子・制御情報工学科棟	
	N05	ものづくり教育センター	
	M03	生物応用化学科棟	
生物応用化学科	M02	生物・化学実験棟	
	E01	産学連携リサーチセンター	
	N05	ものづくり教育センター	
	E01	産学連携リサーチセンター	
材料システム工学科	E07	機械材料システム工学科棟	
	E08	高圧機器分析室	
	M05	材料実習棟	

教室	1・2年生	S01	一般教室棟
		S02	一般共通棟
	3年生	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
	4・5年生	E05	D3,4教室棟
		E06	D1,2教室棟
		M03	生物応用化学科棟
		M04	専門教室棟
	専攻科	S06	専攻科棟
	D4教室	E05	D3,4教室棟
美術室	M04	専門教室棟	
福利厚生	学生寮(筑水寮)	N01	筑水寮
	学生寮(つつじ寮)	N02	つつじ寮
	観心館	N03	観心館
	食堂・売店	N06	ウェーブホール
	テニスコート	W01	
	運動場	W02	
	野球場	W03	
	弓道場	W04	
	体育器具庫	W05	
	第二体育館	W06	
	第一体育館	W07	
	武道場	W08	
	学生部室	W09	
	プール	S08	
	駐車場(学生用)	P01, P02	
駐車場(教職員用)	P03, P04		
駐車場(外来・教職員用)	P05		
バイク駐輪場	P06, P07		
駐輪場	P08, P09, P10, P11		

アクセス



令和4年度 学 校 要 覧

令和4年7月

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校 広報委員会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目1番1号

TEL 0942-35-9300 (代表) FAX 0942-35-9307

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

